

症例解析演習 I

Pharmacotherapy Case Study I

医療科目 4年/前期 1単位 必修科目

科目責任者 石橋 賢一 (病態生理学教室)、越前 宏俊 (薬物治療学教室)

■ 教育目的

薬剤師には個々の患者の臨床的問題について薬物治療を中心に速やかに解決できる（トラブルシューティング）能力が求められている。薬局に相談に来た患者を想定して、疾患と重症度のトリアージを短時間でみんなと話し合い（SGD）、ワールドカフェ方式で同じ症例を話し合っているグループと交流する。情報をまとめ症例について分析するのは学生であり（team-based learning）、教員は判断の仕方や行動に焦点を当ててフィードバックする。最後に各自がワークショップの話し合いや調べた知識に基づいて最も考えられる疾患をその判断の根拠とともにレポートを書けるようになる。

■ 学習到達目標

1. 病態生理学、臨床検査学の知識を総動員して、模擬症例について個々の患者のヒストリー、検査データ、身体所見から患者の病態や重症度が評価できる。
2. グループで学習し、その成果をレポートできるコミュニケーション能力。
3. 主な徴候から鑑別診断をあげて、種々のデータをもとにそれを識別できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：ホームページでやり方を確認する <http://www.my-pharm.ac.jp/kishiba/sub116.html>

復習：SGD の内容をもとに各自が調べてレポートを次回の講義までに作成して、抗議の開始前に机上に提出する（計 7 回）

■ 授業内容

1 時限は徴候の鑑別診断の講義を行う。2 時限目はその徴候の鑑別を行うべく複数の症例が与えられるので、SGD によって識別する。次回の講義までに各自がレポートをまとめて、講義の開始までに机上に提出する。中間試験では 7 つの徴候から出題される症例について持ち込み不可でどれだけ識別ができるかを誘導形式の選択問題試し、定期試験では中間試験の成績を踏まえて出題方式を変える可能性もある。

徴候は薬局での患者の訴えを想定しているが、SGD の進行を見ながら変更することもありうる

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	浮腫のワークショップ	症例解析演習は 1 週間全 2 時間を 1 クールとして、1 時限を使ってフロネシス 1 階でワークショップを行います（教員による鑑別診断の講義と質疑応答；症例の背景、データの解析、診断へのヒント）。	C15 (1)
2	浮腫疾患の SGD1	2 時限をグループ学習 SGD にあてます。SGD はワールドカフェ方式で 2 回行います	C15 (1)
3	脱力のワークショップ	各自がワークショップの話し合いや調べた知識に基づいて最も考えられる疾患をその判断の根拠とともにレポートを書きあげて提出	C15 (1)
4	脱力疾患の SGD		C15 (1)
5	腰背部痛のワークショップ		C15 (1)
6	腰臀部疾患の SGD		C15 (1)
7	腹痛のワークショップ		C15 (1)
8	腹痛疾患の SGD		C15 (1)
9	発熱のワークショップ		C15 (1)
10	発熱疾患の SGD1		C15 (1)
11	やせのワークショップ		C15 (1)
12	やせ疾患の SGD		C15 (1)
13	出血傾向のワークショップ		C15 (1)
14	出血傾向疾患の SGD		C15 (1)
15	中間試験		C15 (1)

■ 授業分担者

No.1～6：石橋 賢一、No.7～10：越前 宏俊、No.11～14：庄司 優、No.2,4,6：池上 洋二、No.2,4,6：植沢 芳広、No.6,8,10：大野 恵子、No.6,8,10：佐野 和美、No.10、12,14：野澤 玲子、No.10、12,14：小川 竜一、

■ 成績評価方法

参加度（代表や質疑応答、出席）（20%）、病態解析チャート（20%）、期末試験（60%）によって評価する。

■ その他

ホームページ <http://www.my-pharm.ac.jp/~kishiba/sub116.html>